# 早期からの暗期設定が大和肉鶏の生産性に及ぼす影響

## ～大和肉鶏では早期日齢からの暗期設定は生産性向上につながらない～

常時点灯で管理が推奨される大和肉鶏飼育において、早期から暗期を設定した場合、生産性が低下する傾向が見られました。

### 1．背景と目的

18 週飼育する大和肉鶏は照度 0.5 ルクス 24 時間点灯が推奨されていますが、飼育期間が短いブロイラーでは消灯する暗期を設定することで生産性向上が報告されています。

７月発生の大和肉鶏の８週齢以降で、様々な暗期と照度の組合せを調査したところ、１時間の暗期と２ルクスの照度の組合せで、従来と同等の生産性が示唆されましたが、生産性向上までは見られませんでした。この原因として８週齢以降の暗期設定では開始時期が遅い可能性が考えられたため、今回５日齢という早期から暗期設定した場合の影響を調査しました。

### 2．研究成果の概要

10 月 17 日発生の大和肉鶏の５日齢から 18 週齢まで、1 時間の暗期を設けた 23 時間点灯を実施しました。対照区はガイドライン通りの 0.5 ルクス 24 時間点灯としました。

体重については、18 週齢で雌雄とも試験区が小さい傾向となりました（図１）。一方、飼料要求率（１kg 体重を増加させるために必要な飼料量）を週齢別に比較すると、17 ～ 18 週齢で試験区が対照区に比べ増加しました（図２）。

この要因として、本来増体へ利用されるエネルギーが、繁殖行動に消費された可能性があります。本試験は外部の光がわずかでも入る環境で実施したため、鶏の光感受性等の季節差による要因により、性成熟が早まり繁殖行動が活発化したと考えられます。

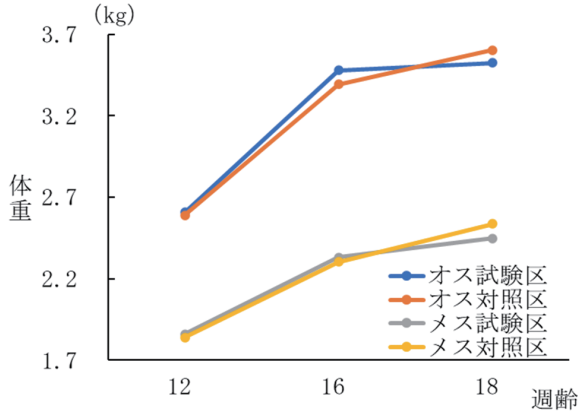


図１　体重推移

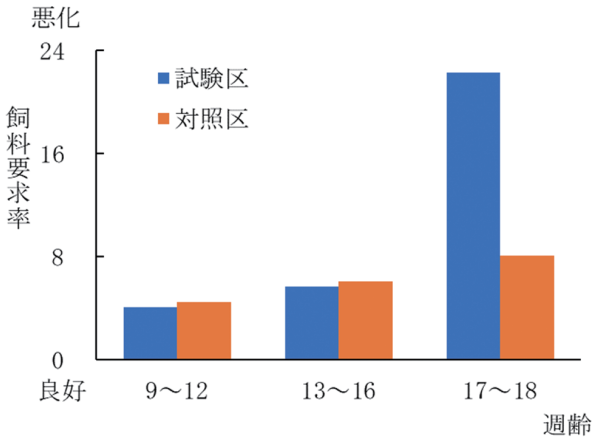


図２　飼料要求率

### 3．実用化に向けた対応

繁殖行動はエネルギーの消費量を増やすだけでなく、雄が上に乗ることで雌の脱羽等を引き起こし、肉鶏にとって商品価値の低下を招きます。本試験から、早期の暗期設定は鶏の性成熟を早め、生産性の悪化につながる可能性が示されました。

（畜産研究部中小家畜科　倉田佳洋）

奈良県農業総合研究センター
ニュース　vol. 170
2026年7月発行

編集発行　奈良県農業総合研究センター
T E L　0744-47-4491 ㈹
F A X　0744-47-4851
U R L　https://www.pref.nara.lg.jp/n128/1761.html
印　刷　株式会社春日